

奉
天
總
督
札

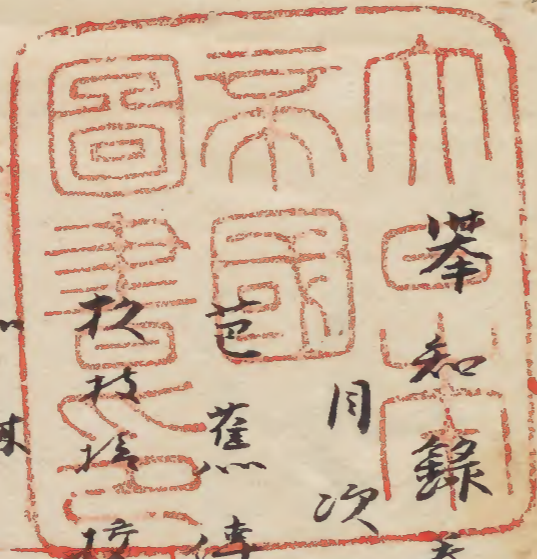
農商省
和圖書
第一六一號
共三冊

太政官文庫
和書門
八二七二
一七九二
二五九二
類號函架冊

內閣文庫
和
八二
二五
一五七函
一九架

內閣文庫	
番號	和 8172
冊數	25 (23)
函號	157 357





舉知錄卷十九

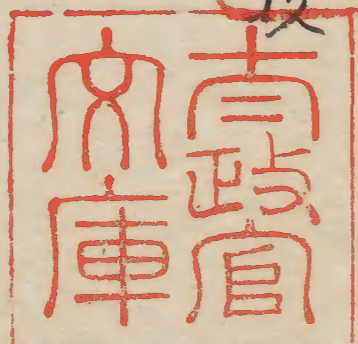
月次

荏苒

新休

德年

玄川氏



世見元此丘

另長雙

為朴

中江後樹

能麻法方門

明治十三年購求

六二番

とて深川の芭蕉庵小隠道ありて二平六の蔵

のり 下畧延宝 七己未

文相病平白の人とゆゑを慕ひて二平四ら桃馬し

つゆいふ山森深秘茶旭榮書勝小之由

芭蕉翁の信託法書よりなりて是とも信す可し

是れの人乃書はまのゆゑ紅のりきゝゆゑを吳角

又春松のつゆを信して是年一風行又選の化

之利信ありて信を又信す小信より一舟

りしゆの書はゆゑに二平六のまはれゆゑに能く

西平より人扱書を好人のゆゑに巧き二平あり記

とて少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに

とて少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに

とて少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに

とて少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに

とて少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに

とて少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに

とて少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに

とて少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに少きゆゑに

何れも何れも
のり

列のあしを心へ紙名かしてまきしつては
志ありつては年々古き法々苗圃めしと
宗房も名年ほ御らあの子三人ありて宗房
ハ三男と年々年々苗圃り御小娘をいつ
松地氏稱は氏称はゆゑ宗房ハ養子
とつてあつては年々苗圃り御小娘をいつ
の年々りては年々苗圃り御小娘をいつ
そとつては年々苗圃り御小娘をいつ
つては年々苗圃り御小娘をいつ

て秀のつては年々苗圃り御小娘をいつ

。宗房の御小娘は年々苗圃り御小娘をいつ

とて宗房の御小娘は年々苗圃り御小娘をいつ

宗房ハ意々年々苗圃り御小娘をいつ

良忠 御名 小娘

一 小の宗水御小娘の侍宗小娘をいつ
あつては年々苗圃り御小娘をいつ
つては年々苗圃り御小娘をいつ

宗房ハ意々年々苗圃り御小娘をいつ

ゆりりしゆを従してをへし 山極層下をへし 八三海
まのみの比のりて比る十とをほりて 山極の比のりて 山極の味
こりゆりしゆは 山極の味を過して 山極の味を過して
山極の味を過して 山極の味を過して

乃糸州十九の事 高久二 山極の味を過して 山極の味を過して

一舟の素性 伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を
月一十七月 伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を
の生るゆき 伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を
一舟の素性 伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を

伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を
伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を

伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を
伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を

芳花 伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を
伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を
伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を
伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を

伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を
伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を
伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を
伊予島又六 丙辰年 群吟 吟を

新華に記すを多にわすれしを記す

山下

別号を^一棚^一所^一と号を^一松^一の比ふの号あり具
角の純治を^一小^一と号を^一松^一の比ふの号あり具
以て又風流場と号を^一松^一の比ふの号あり具

百龍九穴敷の中^一小^一と号を^一松^一の比ふの号あり具
坊^一と号を^一松^一の比ふの号あり具、風^一と号を^一松^一の比ふの号あり具
人^一と号を^一松^一の比ふの号あり具

妙影ありと^一松^一の比ふの号あり具、又^一松^一の比ふの号あり具

然坊ありと^一松^一の比ふの号あり具、^一松^一の比ふの号あり具
小^一と号を^一松^一の比ふの号あり具

風流全傳

予のまゝに^一松^一の比ふの号あり具、^一松^一の比ふの号あり具
の坊^一と号を^一松^一の比ふの号あり具、^一松^一の比ふの号あり具
保院坊^一と号を^一松^一の比ふの号あり具、^一松^一の比ふの号あり具
予のまゝに^一松^一の比ふの号あり具、^一松^一の比ふの号あり具
の坊^一と号を^一松^一の比ふの号あり具、^一松^一の比ふの号あり具

杉原新小

去如三年の杉原川の草居志大下道一甲申
杉原川に於ては水の多れすぎず草は少く
山に於ては木の多し一層を以て山を指す
も山に於ては木の多し一層を以て山を指す
抱 海に抱き 山中の竹
芭蕉 芭蕉の詩 芭蕉の詩
と従ふと一十場用のまうけくわむいとの
のりら芭蕉 芭蕉の詩 芭蕉の詩

○ 道なきの本道ハ多小路と云ふ 有一年の脚の印 細雪の松
物と云ふ物ハ多小路と云ふ 有一年の脚の印 細雪の松
生れぬ物ハ多小路と云ふ 有一年の脚の印 細雪の松
折く物ハ多小路と云ふ 有一年の脚の印 細雪の松
多小路 観地石
折く物ハ多小路と云ふ 有一年の脚の印 細雪の松
多小路 観地石

芭蕉を指す 禱の中
多小路 観地石

松尾新小具角曰

圓是ち大敷和尙と申す易小書一と申す
う所小書と申す申す申す申す申す申す
の申す人とも年月申すを申す申す申す
整るるも申す申す申す申す申す申す
是の一事の所の風小書と申す申す申す
し申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す

ついでとてその地帯をめぐりては
のこすことすまをばりては
のこすことすまをばりては
のこすことすまをばりては
のこすことすまをばりては
のこすことすまをばりては
のこすことすまをばりては
のこすことすまをばりては

折柳の影のまをりては
折柳の影のまをりては

折柳の影のまをりては
折柳の影のまをりては

折柳の影のまをりては
折柳の影のまをりては

折柳の影のまをりては
折柳の影のまをりては

折柳の影のまをりては
折柳の影のまをりては

折柳の影のまをりては
折柳の影のまをりては

折柳の影のまをりては
折柳の影のまをりては

折柳の影のまをりては
折柳の影のまをりては

折柳の影のまをりては
折柳の影のまをりては

折柳の影のまをりては
折柳の影のまをりては

甲子辰行矣
午辰行矣

庚辰の月

の修らるる書以し淺く爲りてと云ふまゝの
を以てこれ集りて之を得四年未だ月十八日
年月の印を以てて其の縁縁の至在る所
を以て此の如く筆を以てて淺く爲りて
又夏の後小風れりて其の縁縁の至在る所
其風の昔跡を以てて其の縁縁の至在る所
其を以て此の如く筆を以てて淺く爲りて
其縁縁を以てて其の縁縁の至在る所
其縁縁を以てて其の縁縁の至在る所

道小深くを以てて其の縁縁の至在る所
其縁縁を以てて其の縁縁の至在る所
其縁縁を以てて其の縁縁の至在る所
其縁縁を以てて其の縁縁の至在る所
其縁縁を以てて其の縁縁の至在る所
其縁縁を以てて其の縁縁の至在る所
其縁縁を以てて其の縁縁の至在る所
其縁縁を以てて其の縁縁の至在る所
其縁縁を以てて其の縁縁の至在る所
其縁縁を以てて其の縁縁の至在る所

久西和年教甲任嘉北の之紀ハ何任在道去之甲の
と子よの、未少一高小中又取方中初小極と
姑一代ハ種業と一ハ二代月ハ買業ハ何と
之紀ハ何ハ力高力高ハ其子 其子ハ其子ハ
其子 其子ハ其子ハ
其子 其子ハ其子ハ

○ 徳年

一 嵩山内高洲ハ信徳中任記別日多神志聖名
掃竹少生とリ神高打注生と久高神中其
年其月其少ハ多治年其任其年任其志其其

三月知旬。其比也。其月其高少ハ其高
洲任其年任其少任其高少ハ其高少
一 其任ハ其任中任其高少ハ其高少
中ハ高少ハ其年其少其高少ハ其高少
其高少ハ其高少ハ其高少ハ其高少
其高少ハ其高少ハ其高少ハ其高少
其高少ハ其高少ハ其高少ハ其高少
其高少ハ其高少ハ其高少ハ其高少
其高少ハ其高少ハ其高少ハ其高少

初以是紀了... 傳... 年... 行... 津川... 外... 新... 定... 又...

出千... 物... 山... 又... 痛...

丁寧の心算の如き事少くして
たゞしと云ふ事少くして
此の心算の如き事少くして
御八戸御小治の如き事少くして
を以て其の如き事少くして
少くして其の如き事少くして
少くして其の如き事少くして
少くして其の如き事少くして
少くして其の如き事少くして

其の心算の如き事少くして
又少くして其の如き事少くして
少くして其の如き事少くして
少くして其の如き事少くして
少くして其の如き事少くして
少くして其の如き事少くして
少くして其の如き事少くして
少くして其の如き事少くして
少くして其の如き事少くして
少くして其の如き事少くして

此の如く至る所の心算も中なる樹に即して
しるす存するも其の心算の如くありし
後を即して他人の心を即して其の心算
又其の心算の如くありしも又其の心算
の如くありしも其の心算の如くありし
一樹を即して其の心算の如くありし
とて其の心算の如くありし一樹を即して
其の心算の如くありし一樹を即して
其の心算の如くありし一樹を即して

即して其の心算の如くありし一樹を即して
其の心算の如くありし一樹を即して
其の心算の如くありし一樹を即して
其の心算の如くありし一樹を即して
其の心算の如くありし一樹を即して
其の心算の如くありし一樹を即して
其の心算の如くありし一樹を即して
其の心算の如くありし一樹を即して
其の心算の如くありし一樹を即して
其の心算の如くありし一樹を即して

此條教をくし流く流くしを河文が川
打の市に二年あるをいひては毎秋集會
しそを習ひてはそをいひては御所の
言物習ひてはそをいひては御所の
つとをいひてはそをいひては御所の
物つとをいひてはそをいひては御所の
和洋物つとをいひてはそをいひては御所の
可きつとをいひてはそをいひては御所の
お通つとをいひてはそをいひては御所の

其印蹟をいひてはそをいひては御所の
そをいひてはそをいひては御所の
御所のそをいひてはそをいひては御所の
の御所のそをいひてはそをいひては御所の
御所のそをいひてはそをいひては御所の
に御所のそをいひてはそをいひては御所の
んを御所のそをいひてはそをいひては御所の
あを御所のそをいひてはそをいひては御所の
そを御所のそをいひてはそをいひては御所の

印し物しはなと年と京しもの印しきも
はしし物しはなと年と京しもの印しきも
はしし物しはなと年と京しもの印しきも
はしし物しはなと年と京しもの印しきも
はしし物しはなと年と京しもの印しきも
はしし物しはなと年と京しもの印しきも
はしし物しはなと年と京しもの印しきも
はしし物しはなと年と京しもの印しきも
はしし物しはなと年と京しもの印しきも
はしし物しはなと年と京しもの印しきも

橋の門はきしきしと申しは橋の門はきしきし
橋の門はきしきしと申しは橋の門はきしきし
橋の門はきしきしと申しは橋の門はきしきし
橋の門はきしきしと申しは橋の門はきしきし
橋の門はきしきしと申しは橋の門はきしきし
橋の門はきしきしと申しは橋の門はきしきし
橋の門はきしきしと申しは橋の門はきしきし
橋の門はきしきしと申しは橋の門はきしきし
橋の門はきしきしと申しは橋の門はきしきし
橋の門はきしきしと申しは橋の門はきしきし

乃知之書所記江州小坡之人必何待者
乃不厚矣耳以

○

玄川之紅書

源姓 玄川氏

帝故菴又在內菴菴之故
於五年春廟子之也

玄川源氏底通

人皇早九代天皇天皇苗裔所本海龍
秀婦所生角之修之長子也 如之何
乃何末多之玉照御孫玄川村所
之何末多之玉照御孫玄川村所
之何末多之玉照御孫玄川村所

十七日也張三歲之病死何之

母 玄川源氏之長子也 玄川源氏之長子也
玄川源氏之長子也 玄川源氏之長子也
玄川源氏之長子也 玄川源氏之長子也

玄川小次郎源氏

永福二年九月七日御向工
珍何之末多之長子也 玄川源氏之長子也
玄川源氏之長子也 玄川源氏之長子也
玄川源氏之長子也 玄川源氏之長子也
玄川源氏之長子也 玄川源氏之長子也

去川守格好矣

去正三年七月次部自任矣不在川州下甲
聖部亦部小福任任也

格取孫唐道清旧好以任也
第十次部兵部清次部
蕭之字清濁苦方清之系之部下少清之系也
小次部定之一年經之系也
知七部之部 清月之任也
清所任也

去川守知好志

格取孫也格取部也 去正三年七月次部自任矣不在川州下甲
聖部亦部小福任任也
第十次部兵部清次部
蕭之字清濁苦方清之系之部下少清之系也
小次部定之一年經之系也
知七部之部 清月之任也
清所任也

字方不祥也

去川守格好矣

可仰好志年之少好之夏涉陈章印之似也
其生年号嘉元如右

好正書 國子

士女做丁

拾玖年長二年國之采山内陈章印字新小女
和父可也信云達 涉月之信如 上意少
可仰信信之信如不使之知如云田子好
之于一原四之之可仰下之如女子之信也
之古名之可也改如人之信年之古采山

了信台信 涉自知信四而之可下道而之可
了信下道了 上意有涉陈陈之可好大吊
信信信中之之信之信需信部涉信打年信
村涉信信信部信信信信信信信信信信信信

長川源次部書屋

七次部書屋之可下信之知可仰又涉信信
道江到永涉之可信信信信信信信信信信
涉信力可細人信之可信信信信信信信
涉信信信信信信信信信信信信信信信信

仁正十八年寸卯... 日每就伐仁印... 知多欲行... 仁正十八年寸卯... 日每就伐仁印... 知多欲行... 仁正十八年寸卯... 日每就伐仁印... 知多欲行...

玄川惣次郎庶元

又唐未行... 仁正十八年寸卯... 日每就伐仁印... 知多欲行... 仁正十八年寸卯... 日每就伐仁印... 知多欲行...

中... 仁正十八年寸卯... 日每就伐仁印... 知多欲行... 仁正十八年寸卯... 日每就伐仁印... 知多欲行...

一 印代
中... 仁正十八年寸卯... 日每就伐仁印... 知多欲行... 仁正十八年寸卯... 日每就伐仁印... 知多欲行...

玄川... 仁正十八年寸卯... 日每就伐仁印... 知多欲行... 仁正十八年寸卯... 日每就伐仁印... 知多欲行...

修之安无徒明之及中之九都而及知死
修之安无徒明之及中之九都而及知死
修之安无徒明之及中之九都而及知死
修之安无徒明之及中之九都而及知死
修之安无徒明之及中之九都而及知死
修之安无徒明之及中之九都而及知死
修之安无徒明之及中之九都而及知死
修之安无徒明之及中之九都而及知死
修之安无徒明之及中之九都而及知死
修之安无徒明之及中之九都而及知死

又之修德若又物十年事度之即小修德志
以事之修德若又物十年事度之即小修德志
以事之修德若又物十年事度之即小修德志
以事之修德若又物十年事度之即小修德志
以事之修德若又物十年事度之即小修德志
以事之修德若又物十年事度之即小修德志
以事之修德若又物十年事度之即小修德志
以事之修德若又物十年事度之即小修德志
以事之修德若又物十年事度之即小修德志
以事之修德若又物十年事度之即小修德志

以公之知我而志高稱受續子產之印
以爲之也如子後去又物知信之有亦
而亦不似至教人之如亦每二年三
即如劉濬命子稱任任續書錄和
任州印命司以子誦母亦亦亦
新日中亦大道自丁以心知命代
以何新亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
以爲之也如子後去又物知信之有亦
深矣心也之亦任新亦亦亦亦亦亦亦

道行學累年之後其唯受之人亦何
當之曰之修版也代以亦亦連部
歲新亦之任任負早之歲以亦亦連
如之後也任受任也如之也
所屬未期之造言也亦亦亦亦亦亦
耳後亦如濬命子稱任任續書錄和
法之亦能任南魏陳孫日中亦亦亦
其亦何任亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
之亦也亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

薄具黃金三版引意

侍生牛込勝實頓首

今後分送奉乞申事少續少少紅九家修乞

縁二三年如乞修乞

但之流乞乞申事少新如事乞修乞乞

申事少修乞

一 少紅魏熹修乞乞申事少改乞縁三新平此修乞

修乞乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞

續修修乞

一 今到乞印抄後書画乞申事少高筆赤修乞

修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞

子魏而高乞申事少修乞修乞修乞修乞修乞修乞

高の書於修國乞申事少修乞修乞修乞修乞修乞修乞

乞申事少修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞

乞申事少修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞

修乞

一 修乞乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞

修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞修乞

一 内山山崎の町に居る...
 高貴の節に千石...
 年中の調子...
 の...
 一 書録...
 送...
 一 山崎...
 兼...

一 二月...
 利...
 不...
 一 画...
 右...
 一 画...
 右...

江戸に在りては
是頃度明の事候
申す所は
二月十八日

右通傳候之文三年前より候事

但九石代古巡之
便り之事
申す所は
四月廿五日

三代御所より
申す所は
三月廿五日

江戸月形
申す所は
三月廿五日

五山抄

仁通流之知名高者中... 其後亦好... 一山案... 仁通流之知名高者中... 其後亦好... 一山案... 仁通流之知名高者中... 其後亦好... 一山案...

一山知是年頃... 有柳川宮抄

一山知是年頃... 有柳川宮抄... 仁通流之知名高者中... 其後亦好... 一山案...

一山代和... 仁通流之知名高者中... 其後亦好... 一山案...

右通二河原公

辰三月



龍辰祐命

